

# 特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 教育支援部 発行  
令和3年度 第3号（12月15日）

比較的暖かい日が続いた11月でしたが、12月を迎えると急激に寒さを感じるようになりました。今年の冬は厳しい寒さとなる予報を裏付けるように、日中の気温が少しずつ低くなってきているように思います。以前に比べて各施設ではエアコン等が整備されてきていますが、感染予防対策のため常時開いている窓や扉からの隙間風で、室内でも寒さを感じる場面があります。そんな中、はかrazも感染者数が減少したことで、各学校や園等において少しずつ日常が変化してきているのではないのでしょうか。本校においても、先日小学部2年生の児童にとっては入学してからはじめての校外学習があり、青山高原に行ってきました。普段は保護者送迎で登下校しているためスクールバスに乗車すること自体がはじめての児童もおり、車窓から見える景色を楽しんだり、広場を全力で走り回ったりして、素敵な体験をすることができました。いまだ不安が払拭されたわけではありませんが、子どもたちが生き生きと活動できる教育や保育を展開できる毎日が来ることを、切に願うばかりです。

さて、10月に開催された県立高等学校および特別支援学校特別支援教育コーディネーター会議において、津地域障がい者就業・生活支援センター「ふらっと」所長の後藤氏から、「卒業後を見据えて」という演題でご講演いただきました。内容の一部を共有させていただきたいと思います。

## 社会に出ることを見据えて児童期に学習しておきたいこと

特別支援教育とは、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」と文部科学省の答申で述べられています。その中の「社会参加」については、一つの目標として就労があります。「就労の準備」はいつから始まるのかについては、社会に出てからのつまずきから考えると児童期からの積み重ねが大切であるということが言えます。例えば、公共交通機関が使えない、働くことに対するイメージが持てない、挨拶やルールを守ること等の社会性が身につけていない、困った時に援助を求めることができない、などの姿が考えられます。

そこで、児童期に身につけてほしいこと（経験してほしいこと）として5つの力が示されました。具体的には、①生活力、②かかわる力、③えらぶ力、④ルールを守る力、⑤SOSを出す力の5つです。それぞれの力について考えてみたいと思います。

一つ目の「生活力」とは、普段の生活の中から学ぶということです。日常生活の指導においては、場面における適切なあいさつができること、衣服の着替えができること、排泄の処理ができること、食事（マナーや好き嫌い）ができること、掃除に取り組むこと、荷物の整理整頓ができることなどを目標に指導支援が行われていることと思います。教室の掃除や、給食の準備および配膳などを通じて、日常生活の諸活動を自分でできるようにすること、たとえできなくても経験することが大事であるということです。

二つ目は「かかわる力」です。社会生活を送る上では他者との関わりを避けることは難しいのが実情です。円滑な社会生活を送るためにも他者と「かかわる力」が重要になってきます。そのためには、自分の長所や短所を知ること、自分の気持ちや意見を伝えること、他者の気持ちを理解することが必要になってくると考えられます。

三つ目は「えらぶ力」です。自分で選択する経験をしていないと、自分で判断して決めることが難しくなってしまいます。また、ただ選ぶだけではなく、その結果を受け止めることも大切であると考えられます。すなわち、自分が選択して行動した結果について考えたことを、次に活かしていこうとするような経験を積むことが必要であると言えます。

四つ目は「ルールを守る力」です。社会生活を送る上でルールを守ることができないと、他者の信用を失ったり、他者とのトラブルにつながったりする可能性があります。そうならないためには、我慢する力や他者に合わせようとする意識が必要になってくると考えられます。

最後は「SOSを出す力」です。社会に出ると、学校生活を送っていた時のように支援者をはじめとした周囲が気付いて声をかけてくれることは少なくなってきます。そこで、困った時には自分から相談することが大切になってきます。体調の不具合を訴えることや、「わからない」「できない」といったことを適切な場面で言えることも、大切な力であるということです。

以上のように、社会に出ることを見据えて児童期に身につけたい5つの力について説明しました。様々な年齢や発達段階に応じて、子どもの実態を考慮しながら目標を設定し取り組んでいただきたいと考えます。しかしながら、指導の過程においてあらたな課題と直面することも想定されます。嫌なことを避けると、挑戦してみようとする力ややり遂げる力に結びつかないと心配する場面があるかもしれません。また、他害などを防ぐことを目的として集団から離れてしまい個別に対応してしまうことは、みんなと一緒に活動できる力に影響があることも考えられます。いずれの場面においても、子どもが達成可能な目標を小刻みに設定しながら（スモールステップ）、手立てによって見られる変容との関連性に留意し、長期的な視点で支援を継続していくことが、将来の就労に向けた必要な力の獲得につながっていくのではないのでしょうか。

引用：「卒業後を見据えて」 津地域障がい者就業・生活支援センター「ふらっと」後藤勇介氏

（文責 清都）

**つばさ学園の行事について** 今年度も学校見学等、いくつかの行事が中止となる中、ご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。令和4年度の予定については、4月以降お知らせいたします。